

Z会東大進学教室

高1 難関大英語 S

高1 難関大英語



1章 仮定法

要点

■ 確認問題 1

解答

- (1) (If I had more time,) I would read all of his novels (.)
- (2) She wouldn't have caught a cold (if she had not gone out in the rain.)

■ 確認問題 2

解答

- (1) もし私があなたなら、喜んでその申し出を受け入れるだろうに。
- (2) もし貸せるだけの(← 充分な)お金があれば、喜んで君に少しは(← いくらかは)お貸しするのだが。
- (3) 十分に野菜をとらないと病気になりますよ。

■ 確認問題 3

解答

- (1) もし私が鳥だったならば、あなたのもとに飛んで行けたのに。
- (2) その教師が彼を手助けしなかったならば、彼はその口頭試問で失敗したかもしれない。
- (3) もっと一生懸命働いていたなら、私は今頃もっと裕福だろうに。

■ 確認問題 4

解答

- (1) たとえ太陽が西から昇るとしても、私は決心を変えない。
- (2) (万一)私が出かけている間に彼が訪ねてきたら、明日再び来るよう頼んでください。

■ 確認問題 5

解答

- (1) Should an emergency occur, an announcement will be made. 万一非常事態が起きましたら、放送でお知らせします。
- (2) Were I to say "no", what would you do? 仮に私が「いいえ」と言ったらどうしますか。

■ 確認問題 6

解答

- (1) もし鳥ならなあ。
- (2) もっと一生懸命ピアノを練習していたらなあ。

- (3) その少女はまるで大人であるかのように振る舞った。
- (4) 彼はまるで何事も起こらなかったかのようにしゃべり続けた。
- (5) もし太陽の熱がなければ、いかなる生物も存在できないだろう。
- (6) あなたの忠告がなかったならば、私は失敗していただろう。

問題

【1】

解答・解説

(1) If, have

仮定法ではなく単なる条件文であることが, I will go with you から判断できる。

(2) If, had

仮定法過去は現在の事実に反する仮定を表す。

(3) If I had had

仮定法過去完了は過去の事実に反する仮定をするのに用いられる。

(4) would be rich

「あの時～であったら, 今…であろう」の場合は, 前半には仮定法過去完了, 後半には仮定法過去を用いればよい。

(5) would help

仮定法過去の文。

【2】

解答・解説

(1) had had, could have bought [仮定法過去完了] / Had I had, could have bought [倒置形]

(2) should fail [仮定法過去:実現の可能性の低い未来の仮定を表す] / should we fail [倒置形]

(3) were [was] you, wouldn't [仮定法過去] / Were I you, wouldn't [倒置形]

(4) were to [be to の仮定法過去] / Were, to go [倒置形]

【3】

解答・解説

(1) as if he had a lot of money [as though he had a lot of money]

as if または as though を用い, 後には仮定法過去が続く。

(2) as if he had had a lot of money [as though he had had a lot of money]

as if 以下の内容が主節より前の時点である。仮定法過去完了が続く。

(3) about [high] time you went to bed

○ It is about [high] time + S + 過去形 「Sはもう…する時間だ」

(4) had caught the 10:00 Shinkansen, I would be in Nagoya by now

○過去の事実に反する仮定をしているのだから, 仮定法過去完了を用いる。

○「10時の新幹線に乗る」の「10時の新幹線」は, the 10:00 Shinkansen としなくてはならない。the のかわりに a を用いると「10時のどの新幹線でもよいから乗る」という意味合いになり, ここでは不可。

○「乗る」は catch, または take。

○「名古屋に着いているだろうに」は、I would have got to [reached; arrived in] Nagoya にしても間違いではないが、I would be in Nagoya とする方がより自然な表現となる。これは、日本語では動作で表す場合でも、英語では状態で表す方が普通であることが多いからである。

(5) had better not go to work

○ had better *do* 「…する方がよい」: 「…しない方がよい」と否定する場合、not は had better と動詞の間に置く。

【4】

解答・解説

皆さんは大人たちがこう言うのを聞いたことがあるかもしれません。「在学中にそれを学んでおけばよかったなあ。」あるいは「もっと教育を受けられればなあ。」と。彼らがそのように感じるのはなぜだと思いますか。それはおそらく、彼らは、もしほんの少しでも多く学んでいたら、また少しでもよく学んでいたら、人生はより面白くなっているかもしれない、またはよりよい職を得ていたかもしれないと思っているからです。

注

◇ You may have heard grown-ups say,

○ may have + 過去分詞 「…したかもしれない」

○ hear (= 知覚動詞) + O + C (= 原形不定詞) 「OがCするのを聞く」

○ grown-ups 「大人たち」

◇ I wish I had learned that in school,

○ I wish + 仮定法過去完了 (過去の実現しなかった願望)

◇ I wish I had more education.

○ I wish + 仮定法過去 (その時点における実現困難な願望)

◇ they think life might be more interesting, [仮定法過去 (帰結節)]

◇ they might have had better jobs, [仮定法過去完了 (帰結節)]

○ if they had learned just a little more or had learned a little better. [仮定法過去完了 (条件節)]

【5】

解答

(1) 昔々

○ once upon a time 「昔々」 (= a long time ago)

(2) If I had a little daughter, how happy I should be [仮定法過去]

(3) 「全訳」の下線部◎参照。

○ as ... as A 「Aと同じぐらい…、Aのように…」

(4) holding [分詞構文を使う。]

全訳

昔々、美しい妃が窓のそばで縫い物をしながら座っていた。彼女は仕事をしながら、「もし私に小さな娘がいたら、どんなに幸福でしょう。」と思った。(そんなことを)空想している時、彼女は指を針で刺してしまった。血がポトポトと3滴、雪のように白い布地の上に落ちた。

その時、彼女は「◎もし私の小さな娘に血のように赤い唇、雪のように白い肌、コクタンのように黒い髪の毛があったら、どんなにかわいいことでしょう。」と思った。

しばらくした後に、1人の小さな女の子が妃に生まれた。そして妃はその赤ん坊を白雪姫と名付けた。けれども妃はひどい病気だった。かわいい我が子を抱いて、妃は死んでしまったのだった。

注

◇ sit …ing 「座って…する」

◇ Dreaming, (= While [When] she was dreaming, (分詞構文))

◇ needle 「針」

◇ name + O + C 「OをCと名付ける」

【6】**解答・解説**

(1) If I had known that, I could have told you. 「もしそのことを知っていたら、あなたに教えることができただろう。」

仮定法過去完了の文。

(2) If I hadn't gone to the party last night, I wouldn't be so sleepy now. 「もし昨日の夜パーティーに行っていなかったら、私は今こんなに眠くないだろう。」

条件節は仮定法過去完了、帰結節は仮定法過去。

(3) I wish I had been in good health. 「(その時)健康だったらよかったのに。」

'wish + 仮定法過去完了'で過去の事実に対する願望を表す。

2章 比較1

要点

■ 確認問題1

解答

- (1) その電車に乗るより車で行く方が安い。
- (2) それは、そのホテルで一番いい部屋だ。

■ 確認問題2

解答

- (1) simpler (問題はそんなに複雑ではない。君が思っているよりも簡単だ。)
 - ・ not so … 「それほど…ではない」
 - ・ complicated 「複雑な」
- (2) the hottest (昨日はこの年一番の暑さだった。)
- (3) the most valuable (これはこの画廊の中で最も価値ある絵画です。)
 - ・ gallery 「画廊, 美術館」

■ 確認問題3

解答

- (1) worse (私の試験は思っていたよりも悪かった。)
 - ・ I had thought : 「私が思った」のは「試験が悪かった」よりも前の時であることを明示するために過去完了形にしてある。I thought でも可。
- (2) the latter (明治維新は19世紀の後半に起こった。)
 - ・ restoration 「(制度・秩序などの)復活, 復興」
 - ・ the latter half 「後半」
- (3) farther (名古屋から東京は、名古屋から京都までよりずっと遠い。)

■ 確認問題4

解答

- (1) ビルは君が思っているほど愚かではない。
- (2) あなたは好きなだけ長く滞在することができる。

■ 確認問題5

解答

- (1) is about half as large as that of Japan
- (2) as much money as they could
- (3) may [might] as well throw money into the sea
- (4) not so much a politician as

問題

【1】

解答・解説

- (1) ウ「好きなだけクッキーを取ってください。」:「あなたが好むのと同じ数のクッキー」と考えて、同等比較にする。cookies が可算名詞なので as many cookies as you like になる。
- (2) エ「風は、我々がスカイダイビングができないほど強くはなかった。」
○ prevent ~ from ...ing 「～が…することを妨げる」
- (3) エ「1975年に我々の村で学校に通っている子供は、1965年よりも少なかった。」children (複数名詞) を修飾する形容詞なので few を用い、この場合 than があるので比較級にする。
- (4) ウ「重工業は、ますますオートメーション化して人手に頼らない方向に動いている。」manpower (人的労働力) は不可算名詞なので、little (少ない) の比較級 less で修飾する。
- (5) ウ「野球とサッカーでは後者の方が好きだ。」late は‘時間’に関しては later (より遅く) - latest (一番遅く; 最新の) と変化し、‘順序’に関しては latter (後者の) - last (最後の) と変化する。
- (6) エ「ジェーンは最新の出で立ちをしていた。」(5) の解説を参照。
- (7) イ「万一もっと詳細な情報が必要であるならば、都合に合わせて遠慮なく連絡してください。」farther は‘距離’について「もっと遠い(遠く)」, further は‘程度’について「さらに、その上」の意味。ただし、further を‘距離’について用いることもできる。
○ don't hesitate to do 「遠慮なく…する」 e.g. hesitate (ためらう)
- (8) ア「私は思ったより疲れているみたいだ。」tired のような分詞形容詞の比較級は more を用いる。
- (9) エ「彼は死ぬことよりも生きることを恐れている。」afraid, awake のような叙述的にのみ用いる形容詞の比較級も more を用いる。

【2】

解答・解説

- (1) three times as large as that of Spain 「日本の人口はスペインの人口の約3倍である。」
○ ~ times as ... (原級) as A 「Aの～倍…だ」
- (2) You must hand in your essay as soon as possible 「できるだけ早く論文を提出しなさい。」
○ as ... as possible [one can] 「できるだけ…」
- (3) Mary is going to buy a bag as well as a pair of shoes 「メアリーは靴だけでなくバッグも買うつもりでいる。」
○ A as well as B 「BばかりでなくAも、Bと同様にAも」
- (4) He is not so much a teacher as 「彼は教師というよりも哲学者である。」
○ not so much A as B 「AというよりむしろB」

- (5) is about twice the size of Tokyo Dome 「その島は東京ドームの約2倍の大きさだ。」
 ○ ~ times as + 原級 + as A は, ~ times the + 名詞 + of A で書き換えられる。
- (6) in what he is [what he has] rather than in what he has [what he is] 「人の価値は財産 [人格] というよりむしろ人格 [財産] にある。」
 ○ B rather than A = not so much A as B 「AというよりむしろB」 AとBの位置が入れ替わる点に注意。
- (7) She wrote as many as one hundred books 「彼女は100冊もの本を書いた。」
 ○ as many as + 数詞 (数), as much as + 数詞 (量) 「~もの多くの」
- (8) I might as well be talking to the wall as 「彼に話すくらいなら壁に話した方がましだ。」
 ○ may [might] as well A (as B) 「(Bするくらいなら) Aした方がよい」

【3】

解答・解説

- (1) My salary isn't so high as yours.
 ○ salary は high / low で高低を表す。
- (2) This hotel is not as quiet a place [not such a quiet place] as it used to be.
 ○ 'as + 形容詞 + a [an] + 名詞' の語順に注意する。
 ○ used to do : 過去の習慣や状態を表す。現在との対比で用い、状態・動作動詞の両方を受ける。
- (3) He was as patient a teacher as anyone.
 ○ as ... as any 「どれ [誰] にも劣らず…」
- (4) Despite her disability, she tried to lead as normal a life as possible [she could] .
 ○ despite ~ 「~にもかかわらず」
 ○ as ... as possible [one can] 「できるだけ…」

【4】

解答

悲しいことに、言葉の暴力は、映画に出てくる血と同じくらい不用意に用いられるようになり、一般に認められるようになってしまった。さらに、伝達においては絶えず汚い言葉を使用せずに強調することは不可能であるように思われる。現代のハリウッド映画を見るだけで、この現象に気づくのである。

注

- ◇ violence 「暴力, 乱暴, 激しさ」
- ◇ casual 「何気ない, いい加減な」
- ◇ moreover 「さらに, その上」

【5】

解答・解説

(1) teeth

空所(1)の直後に perfect, pearly white とあり, さらに 2 文目の They は Paul's (1) を指している。これが「ガムを噛んだり, セロリを食べたりすると, とても大きな音をたてた」とある。したがって, 「真珠のように白く, ガムを噛んだりセロリを食べたりすると大きな音をたてる」ものは, 歯である。空所(1)には複数形の teeth が入る。

(2) 「全訳」を参照。

全訳

ポールの歯は申し分なく, 真珠のように白かった。しかし, ひきうすのように大きかった。ガムを噛んだり, セロリを食べたりすると, とても大きな音がした。ポールは風船ガムが好きで, 80 日間の世界一周の風船旅行をしたがっている人々のために, ガムで巨大な風船を膨らませてあげたものだった。

注

- ◇ Paul 「ポールバニヤン (Paul Bunyan)」アメリカで最も偉大な伝説の英雄で, 最も人々に愛されたほら話の主人公。
- ◇ chew ～ 「～ (=食べ物) をよく噛む」
- ◇ blow ～ 「息を～に通す」 e.g. blow a balloon (風船を膨らます)
- ◇ enormous 「巨大な, 莫大な」

【6】

解答

私は 20 代の頃ほど丈夫ではない。今では山荘の周りの見慣れた風景を絵に描いて何時間も過ごすのが何よりも楽しみである。

注

- ◇ not so + 原級 + as A 「Aと同じほど…ではない」
- ◇ when (I was) in my twenties : 主節の主語と同じである場合, 主語と be 動詞は省略できる。「20代」は twenties と複数形になることに注意。
- ◇ Nothing [No (other) + 単数名詞] ～ so [as] + 原級 + as A 「Aほど…な～はない」最上級の意味を表す。(= Nothing gives me a greater joy than spending ～ . / Spending ～ gives me the greatest joy.)
- ◇ spend + 時間 + (in) …ing 「…するのに～ (=時間) を費やす」
- ◇ cottage 「山荘」

3章 比較2

要点

■ 確認問題 1

解答

- (1) He is three years older than I am
- (2) He is two years junior to me
- (3) the easier of the two books
- (4) The dress is more pretty than comfortable

■ 確認問題 2

解答

- (1) 彼は彼女よりずっと多くのアイデアを持っている。
- (2) 彼の病気は当初私たちが思っていたよりずっと深刻だった。

■ 確認問題 3

解答

- (1) 馬が哺乳動物であるように、鯨も哺乳動物である。
- (2) トマトが果物でないように、スイカも果物ではない。
- (3) この頃ますます寒くなってきている。
- (4) 持てば持つほど、欲しくなる。

■ 確認問題 4

解答

- (1) このレストランは昼時が一番混んでいる。
- (2) 私達が昨夜観た映画は非常につまらなかった。
- (3) たいていの問題には解決策がある。
- (4) どんなに金持ちでも愛情を（お金で）買うことはできない。

■ 確認問題 5

解答

- (1) Dublin is by far the largest city in Ireland
- (2) This is the very best of all her albums

■ 確認問題 6

解答

- (1) Kasumigaura is the second largest lake in Japan.
- (2) He is one of the best athletes in the world.
- (3) He would be the last person to tell a lie.

■ 確認問題 7

解答

I've never seen a more interesting film than this.

I've never seen such an interesting film as this.

問題

【1】

解答・解説

- (1) イ「その村は春が一番美しい。」
○同一の物についての比較はアのように the を付けない。ウ a most とある場合は、後に名詞が来なくてはならない。エ「非常に美しい」という場合は the を付ける必要はなし。
- (2) イ「私はクラシック音楽よりもヘヴィメタルの方が好きだ。」
○ prefer A to B = like A better than B 「BよりもAを好む」
- (3) ウ「ジェーンは料理がメアリーより下手だ。」
○ inferior [superior] to ~ 「~よりも劣っている [優れている]」

【2】

解答・解説

- (1) Tom is cleverer than any other boy in this class. [比較級を用いた文]
Tom is the cleverest boy in this class. [最上級を用いた文]
「トムより頭がいい少年はこのクラスにはいない。」
- (2) I have never seen so interesting a picture as this.
○ 'so + 形容詞 + a [an] + 名詞' の語順に注意。
This is the most interesting picture I have ever seen.
「私はこれほど面白い絵を見たことがない。」
- (3) No (other) city in the United States is as large as New York.
「ニューヨークはアメリカ合衆国で最も大きな都市です。」

【3】

解答・解説

- (1) older, worse [poorer]
○ the + 比較級 ~, the + 比較級 … 「~すればするほど…する」
- (2) not less
○ not less ~ than … 「…に勝るとも劣らず~」
- (3) the harder
○ all the + 比較級 + because [for] … 「…のためによりいっそう~」
- (4) second largest
○ the + 序数詞 + 最上級 「何番目に~である」
- (5) much [still] less
○ 否定文 + , much [still] less ~ 「まして [なおさら] ~ない」
- (6) less and less interested
○ 比較級 + and + 比較級 「ますます…」

(7) the last

○ the last + 名詞 + to do 「…する最後の～→最も…しない～」

【4】

解答・解説

(1) the better of the two 2つのうちどちらがいいですか。

○ 2者の比較の場合、比較級に the が付く。

(2) better than to do such a foolish thing 彼女はそのような愚かなことをしないだけの分別はある。

○ know better than to do 「…しないだけの分別はある、…するほど愚かでない」

(3) by far the most interesting これは飛び抜けて面白い話だ。

○ 最上級を強める by far は the の前に置く。

(4) The wisest man sometimes makes a mistake どんなに賢い人でも時には間違えることがある。

○ 最上級には even (～でさえも) の意味が含まれることがある。

【5】

解答・解説

(1) 彼は懸命に働いたにもかかわらず、少しも金持ちにならなかった。

○ none the + 比較級 + because [for] ～ 「～にもかかわらず少しも…でない」

(2) よい友人と交際することはお金を稼ぐのと同様に我々にとって大切なことである。よって、よい友人を選ばなければならない。

○ associate with ～ 「～と交際する」

○ A is no less … than B (is) 「Bと同様にAは…である」

【6】

解答・解説

(1) of

文の構造は以下の通り。

It { is shaped like a funnel
and
consists (A) wind which whirls around and around extremely fast.

○ It は前文の主語 A tornado のこと。which whirls around and around extremely fast は先行詞 wind を修飾する。consist とともに用いられる前置詞は of または in であるが、consist of と consist in は、それぞれ「～から成り立つ」と「～にある」で意味が異なる。ここでは wind が It (= A tornado) の一部となっているので、consists of としなければならない。

(2) ウ

- weather scientists は「気象学者」のこと。are unable to know は「知ることができない、予測できない」ということ。トルネードが起こるのはこれから先のことであるので、助動詞 will を用いる。この when 節は名詞節。

(3) which [that]

- (C) を含む文には、動詞が2つある。occur と are である。それぞれ主語が必要である。are の主語は Tornadoes, occur の主語は (C) である。また、(C) occur over water で節を形成しなければならない。以上のことから、(C) には関係代名詞が入ることがわかる。Tornadoes を先行詞とする主格の関係代名詞は which [that] である。

(4) 「全訳」下線部①～③参照。

- ① ○ It = the tornado
- all the storms that we have on the earth の that は関係代名詞で先行詞は all the storms。
- ② ○ reach ～「～に達する、届く」
- a speed of more than nine hundred kilometers per hour : of は‘同格’で、「速度、すなわち more than nine hundred kilometers per hour」を意味する。
- more than ～「～より多い、～を超える、～以上」
- per hour 「1時間あたり (= an hour)」
- ③ ○ annually 「1年に、年間で」
- there are many more = there are many more tornadoes
- more + 可算名詞 の複数形を強調するのは much ではなく many である。

全訳

悪天候はさまざまな形で起こる。悪天候の一種に、トルネードがある。①地球上にあるすべての嵐の中で、最も破壊力のあるものの1つである。

トルネードとは、空から垂れ込めている長い雲のことである。じょうごの形をし、猛スピードでぐるぐる回る風から成る。実際に、②嵐の速度が時速900キロ以上に達することもあり得る。気象学者は、いつトルネードが起こるのか正確に知ることはできない。幸運なことに、トルネードは通常それほど大きいものではなく、長時間続くものではない。

③アメリカでは、年間200ほどのトルネードが発生するが、年によってはこれよりもずっと多くなることもある。水上で起こるトルネードは、水上竜巻（ウォータースパウト）と呼ばれる。

注

- ℓ. 1 ◇ form 「形、姿、外観」
◇ tornado 「トルネード、竜巻」
- ℓ. 3 ◇ be shaped like ～ 「～のような形をして」
- ℓ. 4 ◇ extremely 「極端に、極めて」
◇ in fact 「事実、実際は」

- ℓ. 6 ◇ exactly 「正確に, 厳密に」
 - ◇ fortunately 「幸運にも」
 - ◇ usually 「通常」
- ℓ. 7 ◇ last 「続く, 持続する」
- ℓ. 9 ◇ waterspout 「水上竜巻」

【7】

解答・解説

- (1) In this town fires occur less frequently than before.
- (2) We need much more time to finish this job.
 - 「(～より) ずっと多い」の意味を表す時は, much [far] more + 不可算名詞,
many [far] more + 可算名詞の形をとる。
- (3) He looks happiest when he is busy.
 - 同一人(物)についての比較の場合は最上級でも the を付けない。
- (4) Most people believe that marriage and family life are the foundation of society.
 - 「たいていの」の意味で most を使う場合, the は付かない。特定者の中の「大部分」を表す場合は most of the + 名詞となる。

4章 句と節

要点

■ 確認問題 1

解答

- (1) Joe hopes that he will enjoy nature's dramatic wonders. ジョーは劇的な自然の驚異を楽しみたいと思っている。
○下線部は名詞節。
- (2) This is the blog which I spoke to you about the other day. これが先日あなたにお話ししたブログです。
○下線部は形容詞節。
- (3) As soon as I opened the door, I saw a white puppy come in. ドアを開けたらすぐに、白い子犬が入ってくるのが見えた。
○下線部は副詞節。

■ 確認問題 2

解答

- (1) that コロンブスは地球が丸いことを証明した。
(2) That ジョージが来なかったことは私には問題ではない。
(3) what 今日できることを明日に持ち越すな。

■ 確認問題 3

解答

- (1) 神が隠した物を見つけ出すことは私たちの名誉である。
(2) 彼は隠された物を見つけ出すという願望を私たちに植え付けた。

■ 確認問題 4

解答

- (1) ① 副詞節 ② 名詞節 ジョージは非常にお金持ちだが、幸せだとは思っていなかった。
(2) ③ 名詞節 ④ 副詞節 彼女に時間があるかどうかわからないが、もし時間があるなら、あなたを手伝ってくれるだろう。
(3) ⑤ 名詞節 そのアーティストが駅にいつ到着するかは誰も知らない。

問題

【1】

解答・解説

- (1) making so much noise が名詞句「そんな大きな音をたてないでもらえますか。」
‘終了・休止’を表す単語に動詞を続ける時は、動名詞になる。
- (2) to be sitting here with you が名詞句「ここに君と一緒に座っているなんて素晴らしいよ。」
It が形式主語で、to be sitting here with you が真主語となる。
- (3) without water が副詞句「我々は水なしで生きることができない。」
動詞 live を修飾している。tend to do (…する傾向がある) も合わせて覚えておこう。
- (4) broken by your son が形容詞句「あなたの息子が壊したあの窓は、弁償されるべきだ。」
名詞である that window を修飾している。

【2】

解答・解説

- (1) how long I had been working at my present job が名詞節「彼は、私がどのぐらいの期間今の仕事をしてきているのか尋ねた。」
how long は疑問副詞。
- (2) that makes washing machines が形容詞節「スーザンは洗濯機を作る会社で働いている。」
that は関係代名詞。
- (3) when she'll be back が名詞節「彼女がいつ戻ってくるかご存知ですか。」
when は疑問副詞。
- (4) whether she went out alone が名詞節「ひょっとして彼女が1人で出かけて行ったかどうかご存知ですか。」
- (5) when I get home from work が副詞節「仕事から帰宅したら、あなたに電話するよ。」
when は接続詞。
- (6) that I saw him が形容詞節「彼に会った最後の時には、元気そうに見えた。」
that が関係副詞的に用いられている。The last time that I saw him で副詞節としてもよい。
- (7) that Mr. Jones is wealthy が名詞節「我々は皆ジョーンズ氏が金持ちであるという結論に達した。」
that は接続詞で、同格節を導いている。

【3】

解答・解説

本問のような書き換えは入試でもよく狙われるので、知識を整理しておこう。

- (1) early riser 「私の父は早起きだ。」
- (2) so that 「私たちはもっと友達に会えるようにその町に引っ越した。」

- (3) the rain 「雨のせいで出かけなかった。」
- (4) refusal to attend 「彼らはその会議に出席しないことを表明した。」
- (5) During your stay 「あなたが京都にいる間に金閣寺に行くことをお勧めする。」
- (6) Drive, or 「もっと早く運転しないとその電車に乗り遅れるだろう。」
- (7) Drive, and 「もっと早く運転すればその電車に乗れるだろう。」
- (8) What 「なぜ君は彼に腹を立てたんだい？」
- (9) If you 「この薬を飲むと気分がよくなりますよ。」

【4】

解答・解説

- (1) (1) **エ**：動詞の目的語を導く that (2) **イ**：強調構文に用いられる that
- (2) 「全訳」下線部参照。

全訳

世界中のほとんどの社会で、人々はある物体が幸運をもたらし、あるいは悪事から自分たちを守ってくれると信じている。悪事を払いのけ、幸運をもたらすと人々が信じているのは、そうした物体に宿る魔力に他ならない。例えば、旅行者や兵士は、故郷を離れる時、幸運を呼ぶようにとお守りを持ち歩くことが多い。

【5】

解答・解説

- (1)
- (イ) moving：前置詞 of の目的語には動名詞がくる。
 - move on 「移る、動く、進む」
- (ロ) families：most の後にあること、また、動詞が move となっていることから複数形にする。
- (ハ) lives：「一生」の意の life は可算名詞。their に続くので、複数形にする。
- (ニ) pleasure：a great (冠詞＋形容詞) に続くので、名詞形にする。
- (ホ) used：「車は使用される」という文脈なので、受動態になる。
- (2) The same family rarely continues to occupy a house for generations.

It is ～ for O to do 「Oが…するのは～だ」という構文で、「家族が何世代も1つの家に住み続けることは珍しい」という意味。これを副詞の rarely (めったに～ない) を用いると、不定詞の意味上の主語である the same family が文の主語になる。

 - continue to do 「…し続ける」 (= continue …ing)
 - occupy ～ 「～を占有する；～を借用して住む」
 - for generations 「何世代もの間」
- (3) home：one は前出の可算名詞を受ける。この場合、直前の home を指す。
- (4) 「全訳」の下線部(b)を参照。
 - mobility 「可動性」
 - exhibit ～ 「～を示す；～を展示する」

- not only ~ 「～だけでなく」
- in the matter of ~ 「～に関して」
- (5) 「全訳」の下線部(c)を参照。
- almost 「ほとんど」
- symbol 「象徴」

全訳

「あなた方アメリカ人はいつも絶えず活動している。絶えず動き回っている。決して1箇所にとどまることはないようです。」これは他の国の人々が、彼らのところに来たアメリカ人に対してよく言うことである。

アメリカ人が動き回るのを好むことは住宅問題に現れている。同じ家族が何世代も1つの家に住み続けるということは珍しい。時には、1世代が1つの家にしか住まないこともあるが、たいていの家族は、一生の間に数回引っ越しをする。夫の収入が増えると、家族は所帯を持ち始めた時の家よりも、住み心地のよい家を借りたり、買ったりする。家族の一員の健康のために、より適した気候の所に住むために引っ越すこともあろう。父親の勤め先の会社が彼を転勤させることもあるし、また他の州でもっとよい職が見つかることもあるだろう。

動き回るとは、アメリカ人に大きな喜びを与えるように思われる。(b)この移動好きは、住宅問題だけに現れているのではない。アメリカ人は、家から家へ引っ越しをしていない時でさえ、絶えず旅行している。車で旅行する人が多いが、飛行機旅行もますます一般的になってきている。しかし、自動車旅行が、断然一番多く行われている。自動車は、社交上の約束や仕事のためばかりでなく、日曜日の午後の家族ドライブにも利用される。(c)立派な車を持つことは、多くの人々にとって、成功の象徴だと言ってもよい。

注

- ◇ move about 「動き回る、転々と移動する」
- ◇ occasionally 「時折」 (= once in a while)
- ◇ either A or B 「AあるいはB」
- ◇ rent ~ 「～を賃借りする」
- ◇ housekeeping 「家政、家事」 start housekeeping で「所帯を持つ」という意味。
- ◇ another = another home
- ◇ by far 「ずっと、はるかに」最上級を強める場合に主に用いられる。
- ◇ ~ as well as ... 「…と同様に～も」 (= not only ... but (also) ~)

【6】

解答・解説

A.

- (1) to apologize too much が形容詞句「あなたは謝りすぎる傾向がある。」
名詞である a tendency を修飾している。tend to do (…する傾向がある) も合わせて覚えておこう。
- (2) with glasses, in charge of our class が形容詞句「眼鏡をかけたあの男性が、私たちのクラスの担任である。」

B.

- (1) what you've just said が名詞節 「私はあなたが今言ったことに同意しない。」
what は先行詞を含んだ関係代名詞。
- (2) that I don't have enough money が名詞節 「問題は私が十分なお金を持っていないことだ。」
that は名詞節を導く接続詞。

C.

- (1) Since, died 「父親が死んだため、エミリーは食欲を失った。」
- (2) Despite, denial 「彼女がたびたび噂を否定したにもかかわらず、誰も彼女のことを信じなかった。」
- (3) to respect 「私は彼らに両親を尊敬するように言った。」
- (4) prevented, from 「吹雪のため私たちは早く出発できなかった。」
- (5) by riding 「駅から2時間バスに乗ると、彼の故郷の村に着く。」



会員番号	
------	--

氏名	
----	--